

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3771500430		
法人名	富士サービス株式会社		
事業所名	グループホーム富士		
所在地	香川県綾歌郡宇多津町2643番地3		
自己評価作成日	平成27年8月5日	評価結果市町受理日	平成26年1月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/37/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JiryoSyCd=3771500430-00&PrefCd=37&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号
訪問調査日	平成27年9月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭生活を思わせるような、間取りや、ゆっくりと時間が流れるような空間がご利用者に提供され、職員が個別のケアを行っている。また、地域の人々と交流を深めるため、参加できるイベント、自治会での活動にも積極的に取り組みを行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点】

理念は、職員間で話し合い、利用者を中心とした、誰が見ても分かりやすい内容にしている。事業所の雰囲気も明るく、利用者・家族から信頼されていることがうかがえる。利用者のペースに合わせた支援は、利用者の穏やかな表情や笑顔につながっている。運営推進会議を通して、地域との交流も広まりつつあり、サービスの向上に、前向きに取り組んでいる。医療機関との連携を密にし、看取りに対応しており、利用者や家族の安心や信頼に繋がっている。職員教育にも前向きに取り組まれ、職員の意見を運営に反映させている。離職者が少ないことで、利用者との馴染みの関係が保たれている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を職員全員で確認し、地域生活の継続支援と事業所と地域の関係性を重視している。	理念は事業所独自で作成し、利用者や家族を中心に、職員にも浸透しやすい内容である。職員間で、日頃から意見を出し合い、内容について検討している。	勤続3年未満の職員もおり、理念の内容について、職員個々の受け取り方に差が生じている。具体的な支援が、理念どおりの実践になっているかを検討するなど、理念を共有化するための取り組みを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域主導のもと、消防訓練の実施等の積極的な参加活動を続けた結果、地域行事や消防訓練の実施等のかかわりを持つことができている。地域の作品展に、定期的に参加している。	事業所は、地域の行事にも積極的に参加し、交流が広がりつつある。事業所内での行事に、婦人会の支援があり、地域の方の参加も多くなってきている。また、中学生の職場体験の受入れや認知症の相談窓口を設置し、認知症への理解を深める取り組みを行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の中学生の職場体験を通して、認知症の理解を深めている。認知症の相談窓口も設置している。認知症サポーターで活躍の場をひろげている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で感染(ノロウイルス、インフルエンザ)等の情報や、地域の行事の話し合いを行い、意見の交換を行っている。担当者へご利用者の状態を報告している。	出席者は、保健福祉課、地域包括支援センター、自治会、婦人会の出席があり、事業所から利用者の状況や行事などを報告し、意見交換を行っている。利用者や家族は参加していないが、運営推進会議の内容は、電話などで家族に報告している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町とは、普段からすぐに連絡できる関係にあり、担当者が運営推進会議に出席したり、市町村からの研修に参加している。	町の担当者とは、常日頃より相談や情報交換をし、協力関係が築かれている。相談事項があれば、運営推進会議を利用し、支援を受けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会の設置により、事業所が作ったマニュアルの確認や、事業所内部、外部の研修に参加し、身体拘束に関して、職員全員が把握している。	身体拘束委員会を設置し、マニュアルを作成している。事業所内研修や外部研修で、拘束のないケアへの理解を深めている。特に1年未満の職員は必須研修とし、研修後には発表している。何気ない言葉でも、言葉の拘束にあたると感じた場合は、すぐに話し合い、理解を促している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の勉強会で話し合い、虐待がないように努め、虐待に対する認識を深めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	対応が必要と思われるご利用者がいる場合は、随時、説明アドバイスを行い、又行政等の協力も求め、ご利用者の支援に結びつけている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、事業所のケアに関する考え方や取り組みについて、しっかりと説明し、又ご利用者の体調によりご家族と話し合い、理解を深める機会を持つ様にしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者には率直に意見を、言いやすい関係づくりに努め、ご家族には電話や手紙、訪問時にはこちらからの声かけをし、コミュニケーションを図り、苦情等についても真摯に対応する姿勢を持っている。	面会時に必ず家族へ声かけをし、意見や要望を聴いている。意見は職員間で共有し、日々のケアに活かしている。苦情には、迅速に対応し、家族から信頼を得られるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段からコミュニケーションを図り、主任を中心に職員の意見や提案を聞く機会を多くとる様に心がけている。又会議やミーティング時を活用し話し合いを持っている。	管理者は、日常的に職員から意見や提案を聞く機会を作っている。職員が研修に参加できる環境づくりに努めており、職員から喜ばれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者も現場に来ており、ご利用者と過ごしたり、個別職員の業務や悩みを把握している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	有資格者には、事業所外で開催される研修には、なるべく多く参加し、無資格者には介護職員初任者研修を受ける様に声をかけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会を通じて交流を持つことにより、サービスの質の向上を目指している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者やご家族の思いを受け止め、安心してもらえるような関係づくりに努めている。しかし、あくまでも主体はご本人としている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人とご家族との思いの違いを含めてご家族の声に耳を傾けたりしながら関係性を築いていこうとしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	可能な限り柔軟な対応を行い、場合には他の事業所のサービス利用につなげる対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の思いや根本にある苦しみ、不安、喜びなどを知ることに努め、暮らしの中で分かち合い、共に支えあえる関係に努め孤独に陥るご利用者がないようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者の様子や職員の思いをきめ細かく伝え、ご本人とご家族の支援者として、ご本人を支えていくための協力関係が、築いていける様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域のひととの関係が途切れない様、知人や友人等の訪問を受け入れ、また外出、外泊を通じて一人ひとりの生活習慣を尊重している。	家族や友人、知人が訪問した際には、話しやすい環境を提供し、利用者から喜ばれている。最近では、友人や知人の訪問が多くなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々、心身の状態や気分、感情の変化を注意深く見守りながらご利用者同士、暮らしの中で楽しめるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでの暮らしの継続性が損なわれないようにこれまでの生活環境、支援の内容、注意が必要な点について情報提供し、連携を心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人からの聞くことはもちろんだが、意向の分かりづらい方については、ご家族から情報を大切にして、意向を把握しようとする取り組みをおこなっている。	利用者や家族の希望や意向には、必ず回答している。特記事項があれば、赤字で分かりやすく記録し、職員全員で情報を共有している。特に、外泊後は利用者が安心して生活できるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や知人に情報の大切さを伝え、小さな事柄でも情報を伝えてもらい、ご本人の全体像を知る取り組みに努めている。ご本人からの話を聞くことに重点を置いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活、心理面の視点やできないことよりできることに注目し、その人全体の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族に意見を求めている。職員に意見を聞きながら、計画担当者がまとめ、介護計画を作成している。アセスメントを詳しく書くように心がけている。	利用者や家族、職員の意見を基に、介護計画をケアマネジャーが作成している。アセスメントを詳しく、職員全員で統一したケアができるよう、介護記録や日々の申し送りノートを基に、介護計画の評価を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事、水分量、排泄等、身体的状況及び日々の暮らしの様子やご本人の言葉等を記録している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況に応じて、通院や送迎等必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足度を高めるように努力している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人の希望や体調に応じて、訪問理美容サービスを利用している。個人の希望により外出し、美容室に行く人もいる。地域のお祭り等に参加できる人、参加できない人にも、関わりを持つ様にしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の協力があり、ご利用者の健康管理等で、すぐに連携できる体制である。またかかりつけ医は、ご利用者の意向に沿いながら選んでもらっている。受診の付き添いは、場合によって行っている。	利用者や家族が希望する医療機関の受診を支援している。通院は家族の協力を得ており、受診結果は、家族と職員で情報を共有している。協力医療機関との連携で、利用者の健康管理を行い、家族から信頼されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調やささいな表情の変化を見逃さないようにしている。又訴えられないご利用者には体調管理を十分に把握し早期発見し、適切な医療への報告につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、ご本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供し、必ず職員が見舞うようにしている。又ご家族の要望があれば協力出来ることは協力するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人やご家族の意向を踏まえ、医師、職員が連携をとり、安心して納得した最期が迎えられるように随時、意志を確認しながら取り組んでいる。	入所時に、管理者が事業所ができる範囲を説明し、家族の同意を得ている。利用者や家族の意向に沿えるよう、意向を確認しながら支援を行い、家族からの信頼が得られるよう努めている。利用者の状態が悪化した場合は、家族や主治医と話し合い、方針を共有し、連携して支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを整備し、周知徹底を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、年2回ご利用者と共に避難訓練を行っている。	災害対応マニュアルを作成し、昼間想定で年2回、火災と地震想定での避難訓練を行っている。避難訓練について、消防署の指導を受けている。現在は、地域消防団、地域住民の参加もあり、地域の協力を得ながら避難訓練を実施している。	夜間に大規模震災が発生した場合は、暗闇の中での避難行動が必要となる場合がある。夜間の震災等を想定した避難訓練を実施し、夜間における災害対応を検討して、災害対応マニュアルに反映することを期待したい。また、食料や水の備蓄などの具体的な震災対策の検討にも期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	丁寧な言葉掛けを心掛け、プライバシーの侵害にならない様になっている。	職員は、排泄時のさりげない声かけや誘導にプライバシーを配慮した対応が見られた。主任が中心となって、職員の言葉の内容や語調について、気になることがあれば、その都度指導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者に合わせて声を掛け、ささいなことでもご本人が決める場面を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れは、持っているが、一人ひとりのペースを大切に、それに合わせた対応を心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行動等、日頃からも、おしゃれを楽しんでもらえるように取り組んでいる。クリスマス等には、ソックスのプレゼントをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材や新鮮なものを採り入れご利用者の好みや、苦手なものを踏まえたメニューを工夫し、ご利用者と職員が同じ食卓を囲んで楽しく食べている。	利用者を交えて食事作りを行っている。利用者には、野菜の皮むきなどの可能なことを協力してもらっている。楽しい雰囲気での食事作りを行い、嫌いな物は代替え品を準備し、利用者の状態にあわせ、固いものは刻み食にするなどの工夫をして提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの体調と一日の摂取量を把握し記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご利用者の状態に合わせて、洗面所にて行っている。(うがい及び歯磨き、義歯の洗浄)定期的に訪問歯科を利用している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、時間を見計らって誘導することにより、トイレで排泄できるよう支援している。	排泄チェック表により、利用者の排泄パターンを把握し、トイレ誘導などの個別支援を行っている。特に夜間は、声かけや見守りなどの注意をはらっている。昼間は布パンツか失禁パンツを使用し、オムツの使用はなるべく控えており、排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給の重要性について職員間で話合っ、個々に応じた予防に努めている。地産地消を考えた献立を考え、又畑で栽培した野菜を利用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご利用者の希望や体調に合わせて、入浴していただくように努めている。また個々に話を聞き、コミュニケーションをはかっている。	週3回実施している。生活習慣を視野に入れ希望を聞くなど、利用者一人ひとりに合わせた対応をしている。1対1で入浴支援を行い、入浴を嫌がる利用者には清拭を組み込むなど、工夫しながら進めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるように努めている。また一人ひとりの体調や表情、希望等を考慮して、ゆっくり休息がとれるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者の薬の処方の説明をファイルに保管し、全職員が分かるように徹底している。服薬時はご本人に手渡し、きちんと服用できているかの確認をし、記録している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割表を作り、ご利用者が自宅にいる時と同様に、生き生き生活出来る様に支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出の希望時は、ご家族の意向に合わせて自由に行えるようにしているが、高齢で外出できない人もいるが、可能な限り出かけられるようにしている。	外出が可能な利用者には、毎日近隣への散歩で、季節感を味わえるよう支援している。最近では、近隣の住民から声をかけてもらい、利用者から喜ばれている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金の所持したり使えるように支援している	ご本人の希望や力に応じて、ご家族の協力のもと管理方法を取り決め、少額のお金を持っている人もいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年、年賀状を出すための支援をかかさず行い、ご家族からの年賀状はご本人に手渡している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅の延長として違和感のある物は置かず、懐かしく感じたり使い易い物品を置くようにしている。	共有空間は、明るく清潔である。居間には畳、長椅子を置き、自由に居心地良く過ごせる工夫をしている。窓際には、植物で緑のカーテンを作り、程よい採光と季節感があり、利用者は穏やかな表情で過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者一人ひとりの不安やストレスを緩和出来るように、ご利用者同士の関係性に配慮した環境づくりを心掛けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた馴染みの物を持ち込み可能な限りご家族と相談しながらご利用者の居心地よさに配慮している。	居室は清掃が行き届いており、清潔感がある。危険防止について、配慮されている。ベッドと収納家具を設置し、利用者が使い慣れた机や思い出の写真などが持ち込まれ、居心地良く過ごせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	状況に合わせて、環境整備につとめている。状況が変わり新たな混乱や失敗が生じた時は、その都度、職員で話し合い、ご本人の不安、混乱材料を取り除き、自立支援につなげている。		